

アイヌ文化の復興と発展の拠点

# ウポポイ 開業3周年

累計87万人がアイヌ文化に触れる

7月8日記念式典

コロナ禍後の新たなスタートに、一層の連携と取り組み強化誓う

## 岡田内閣府特命担当大臣訪れ祝辞 約120人が節目を祝う

このウポポイは政府のアイヌ施策の扇の要であり、アイヌ文化の復興発展の拠点。スタート以来、コロナ禍による入場制限や一時休業などがあり、来場者数は頭打ちの厳しい状況ですが、国内外から一人でも多くの人たちに訪れてもらい、民族共生の理念に共感してもらえよう、関係機関が一丸となり、政府としても全力で取り組んでいきたい。



岡田大臣

常本照樹アイヌ民族文化財団理事長のあいさつをはじめ、岡田直樹内閣府特命担当大臣、鈴木直道知事、大川勝北海道人道協会理事長、大塩英男白老町長らが祝辞を述べました。2020年7月の開業以降、コロナ禍による影響で当初目標の来場者数年間100万人に及ばないながらも、これまでの関係者の努力を評価。来場者増や文化伝承の一層の振興・発信、アイヌ民族の心の拠り所となる施設にと、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴う新たなスタートへの期待感が流れていました。

観光が一気に活発化していることを実感しています。これまで以上に行政や関係機関などが連携し、目標達成を目指したい。地元白老町としても、役場・ウポポイ・観光協会の3者による定期的な情報交換会の開催や本州でのウポポイとの合同PR事業、近隣・道内自治体との広域的連携など、強化を図っているところです。ウポポイがさらに多くの方々に愛され、親しまれる施設になりますよう願っています。



大塩町長



↑式典で披露された伝統芸能上演「イノミ」の特別講演。アイヌの精神文化を象徴するイヨマンテ（熊の霊送り）を、次代に伝えたい思いから生まれた踊りです。

### アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 村木美幸 新本部長 ～旧民博出身で初～

白老町出身。1985年(財)アイヌ民族博物館（旧民博）に入館。学芸課長、館長、専務理事などを経て、2018年現アイヌ民族文化財団への改組後は常務理事、副本部長。今年6月から現職。



#### 【村木新本部長の話】

開業以来のコロナ禍の間は、入場やプログラムなどさまざまな制限で、望んでいたことが十分にできませんでした。だから今を新たなスタートにしたい。関係者みんな同じ気持ちです。これを皆さんにしっかり届けたい。そのためいろいろ楽しんで触れてもらう機会、体験を増やしたい。例えば古式舞踊も一緒に輪になって踊れるように。一方向の発信から双方向への転換が、ウポポイの違う魅力を発信できるのでないでしょうか。